

慶田收教授の退職記念号によせて

学 長 細 江 守 紀

慶田先生のご退職記念号が刊行されるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。慶田收先生は、1974年3月に九州大学経済学部をご卒業後、九州大学大学院経済学研究科修士課程に進学されました。1979年3月に九州大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学後、同年4月より九州共立大学経済学部講師としてお勤めになり、1981年4月に熊本商科大学（現熊本学園大学）経済学部講師として本学に着任されました。

ご着任後は、1984年熊本商科大学経済学部助教授、1991年熊本商科大学経済学部教授として40年という長きに亘り本学にご貢献くださいました。ご多忙なか、大学運営におきましても1996年1月から1997年12月まで国際経済学科長、2008年1月から2011年12月まで海外事情研究所所長、2016年1月から2019年12月まで大学院経済研究科長としてご尽力を賜りました。

慶田先生のご専門はミクロ経済学を基礎とした都市経済学の研究で、長年、住宅立地を中心とした都市経済理論の研究をされ、近年は住宅立地を取り込んだ一般均衡理論研究を進められてきました。この分野では国内有数の優れた研究者と評価されています。また、こうした理論研究だけでなく、50頁を超える労作「アルゼンチン共和国ガルアペー計画 入植地に関する調査報告」（『熊本学園大学経済論集』第19巻3・4合併号2013年3月）という余人の追随を許さない報告書も上梓されており、研究の幅の広さを感じます。慶田先生は九州大学大学院時代の私と同じ研究室の出身で私の後輩にあたり、公私ともどもお世話になりました。しばしば、当時の院生たちと一緒に議論をし、飲み明かしたこともあります。慶田先生は沈着冷静で決して饒舌な方ではありません。私が赴任した八幡大学で慶田先生（当時大学院生）に非常勤をお願いしたことがありましたが、院生ということもあり、大丈夫かと教室を覗いたことがありましたが、心配無用、朗々とした声で明快な講義をされており、後で学生に尋ねたら大変わかりやすい先生だと大評判でした。なお、先生との思い出は数々あり、ご無理を申し上げて、今回のご退職記念号に寄稿させていただきました。

長年にわたって本学の発展にご貢献いただいた慶田收先生は、2021年3月をもってご退職となりました。慶田收先生の今後のご健勝とご活躍を心より願ってご挨拶に代えさせていただきます。